

2024 年度（総合型選抜）AO選抜入学試験
文学部 国際コミュニケーション学域
「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際コミュニケーション学域	25	15	12

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

まず第一に、高校の授業にしっかりと取り組んでいるかどうかについて評価した。その上で、国際コミュニケーション学域が提供するカリキュラムが、課題レポートと志望理由に記されている内容とマッチしているかどうかについても判断した。

(2) 解答状況

受験生の多くは上記のポイントをクリアしていたが、なかには高校の授業に対する取り組みにムラがあるケースがあった。英語だけ成績がよい、あるいは資格試験のスコアが良いだけでは、不十分である。また、国際コミュニケーション学域の学びの内容を十分に把握していない解答も見受けられた。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

高校で学んだこと、体験したことを中心に、それら経験をどのようにして大学での学び、そして将来のキャリアに発展させることが出来るかという点を重視して評価した。

(2) 解答状況

受験生の多くは、高校での学びや体験を、今後、どのように当学域における学問的な探究に結びつけられるかについて、比較的明確に説明できていた。しかし、どちらかというとも漠然と「英語圏文化」や「異文化間コミュニケーション」について興味がある、という解答も多かった。

(3) 試験（面接）内容

二次選考は一次選考で用いた書類をもとに、対面での面接において質疑応答を行った。その評価ポイントは上記のとおりである。

(4) 出題（面接）の意図

高校での日々の授業、留学や旅行、さらにクラブ活動や習い事などを通して得た学びや体験から、大学における研究テーマに発展できるヒントをどれだけ引き出せたかを確認する質問（出題）をした。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

二次試験にあたって気を付けるべきことは、当学域が提供する学びの内容と、受験生の学術的な関心の方向性が一致しているかどうかである。そのため、応募する前に、学域 HP など、自分が学びたいことを学べるかどうか確認してほしい。

また、文化といってもその内容は実に多彩であり、英語圏は多くの国や地域を含んでいる。そのため、ただ漠然と英語を使って英語圏の人とコミュニケーションしたい、というのではなく、もう少し自分が学びたいことについて、具体的なビジョンを持ってほしい。

最後に、高校での日常的な学びや体験には、大学での研究テーマに発展させることができるたくさんのヒントがある。そのことに気付けるよう、日々の学びを大切にしてほしい。

以上